

こうちモノサシってなに？



第一ステップは『季節のモノサシ』

当初、私たちの問いかけは『暮らしの中で感じたり気づいたり、あるいは利活用している自然との接点は？』というものでキーワード収集を想定しましたが、この問いかけに答えてくれる方はほとんどいませんでした。さて、いったいどのような質問をすれば『自分たちの暮らしと自然の接点』についての答えが返ってくるのだろうか、繰り返し議論を重ねた結果、出てきたのが『季節』という切り口でした。

そこで平成27年度は『季節の移り変わり暮らし』において、自然との接点を探る調査・ヒアリング、地域ワークシヨップを行い、成果として約3千のキーワードをサンプリングすることができました。

私たちの作業は3年計画で進んでいます。これらのキーワードをもとに、さらに高知県の多くの地域でヒアリングを重ね、高知ならではの暮らしの中の自然との付き合い方、価値基準、あるいは自然の豊かさを、モノサシとして『見える化』できるツールを作っていきたいと思っています。

こうちモノサシ 豊かさ探しのヒント



「違うからこそ強みになる」

同じ食材でも、地域によってそれぞれ違う料理法があるものです。同じ行事でも、地域により祀りの作法の違いが見受けられます。「普通だから」と思っていたものが、実は素晴らしい地域の豊かさにつながっていると思います。

「田舎伝説、うわさを追求してみる」

たとえばマツタケ。以前十和村や池川町で採れたての現物を見たことも。しかし市場の流通にはのらないし、のせないのです。みんな自分の家にストックしちやいます。

美味しいもの、貴重なものはまず自分が食べるといふ法則。豊かさのヒントは家々の台所にあるかもです。

「厄介モノこそ宝物」

厄介モノにあえて注目してみませんか。今でこそ人気の鯨も、以前は魚を追散らす厄介モノだったのです。今は厄介モノでも、状況が変化すればとてつもない財産になる可能性がありますよ。

「見た目の悪い食べ物も美味」

グジマ、カメノテ、ウツボ、どれも見た目はよろしくありません。おばちゃんたちは「上品なお客さんには出せん」といいます。しかし、これは本当に美味なのです。

「まあ、見栄えはようないけれど」と冷蔵庫から出てくるものは、たいてい、じつに素晴らしい逸品です。

もくじ

こうちモノサシ豊かさ探しのヒント	1
キーワードで見る 春	2
『ラム』暮らしの中の自然モノサシ』西本五十六	3
キーワードで見る 夏	4
『ラム』太陽がもたらす木陰』兼松方彦	5
キーワードで見る 秋	6
『ラム』豊かさを実感する秋』内田洋子	7
キーワードで見る 冬	8
『ラム』静寂と安らぎに就く季節』兼松憲一	9
地域のモノサシさがし	10
事業の概要	11
×メとお知らせ	13